

東日本大震災 4 周年シンポジウム

東日本大震災の発災から 4 周年を迎え、被災地からの情報発信が明らかに減少する中、被災地への社会的関心が薄れつつある。岩手・宮城では復興事業の目処がつきつつある一方、復興事業終了まで残り 1 年となり、積み残された問題については時間切れを迎えつつあるとも言える。被災地支援の観点からは復興のラストスパートに向けて議論を行う必要がある。第一部では、被災地の現状を伝えるとともに支援活動を通して得られた本会として議論すべき支援課題について議論を深める。一方、次の災害復興に備え、被災地での経験を将来につなげるための議論を深める時期に入っている。第二部では、4 年間の被災地での経験・議論の中から短期的に未来につなげられる論点を抽出して議論の頭だしを行う。さらに、次の大規模災害として首都直下地震、南海トラフ巨大地震を対象として、対策課題を提起するとともに建築職能の減災・復興における役割について議論を深める。

<主 催>日本建築学会

<後 援>土木学会、日本都市計画学会、農村計画学会、空気調和・衛生工学会、建築設備技術者協会、日本建設業連合会、日本建築家協会、日本建築構造技術者協会、日本建築士会連合会、日本建築士事務所協会連合会、日本都市計画家協会

<日 時>2015 年 5 月 18 日 (月) 9:00~17:00 <会 場>建築会館ホール(東京都港区芝 5-26-20) <定 員>300 名

<参加費>会員：2,000 円、後援団体：3,000 円、会員外：4,000 円、学生・被災地からの参加：1,000 円

<申込み>本会ホームページ「催し物・公募一覧」からの申込を終了しました。当日受付もいたします。

<プログラム>

開会の辞

吉野 博 (日本建築学会会長/東北大学)

第一部「被災地の実際とこれからの支援」(9:05~12:30)

司会：小野田泰明 (東北大学)

主旨説明

・東日本大震災に対する日本建築学会 4 年間の活動と復興実践の困難性

小野田泰明 (前掲)

津波被災地からの報告(9:15~10:10)

・支援課題の全体像

塩崎賢明 (立命館大学)

・震災復興の進捗概要と地域防災促進に向けた支援活動 (岩手県)

菊池義浩 (岩手大学)

・宮城県支援チームからの報告

佃 悠 (東北大学)

・復興まちづくりにおける専門家の支援とは

北原啓司 (弘前大学)

複合災害被災地からの報告 (10:10~11:05)

・福島支援小委員会の活動報告

土方吉雄 (日本大学)

・福島支援小委員会および広域ワーキンググループの活動報告

川崎興太 (福島大学)

・長期化する仮設住宅居住の環境評価—表出要素に着目した評価手法の試み—

岩佐明彦 (法政大学)

・放射線防護のための都市・住まいの手引き作成 WG

野崎淳夫 (東北文化学園大学)

パネルディスカッション(11:10~12:20)

コーディネーター：小野田泰明 (前掲)

パネリスト：各発表者、古谷誠章 (日本建築学会副会長/早稲田大学)

まとめ

小野田泰明 (前掲)

第二部「将来対応につなぐ」(13:30~16:55)

司会：加藤孝明 (東京大学)

主旨説明

・次の大規模災害に備える都市・地域づくりに臨む基本スタンスに関する論考

加藤孝明 (前掲)

仮設住宅の再定義(13:40~14:10)

・地域資源の活用による被災者のための住宅建設手法に関する考察

岩田 司 (東北大学)

・仮設住宅の経緯と将来

牧 紀男 (京都大学)

建築職能の役割 (14:10-14:55)

・大地震に備えるこれからの建築構造のあり方

金箱温春 (金箱構造設計事務所/工学院大学)

・建築職能の役割 —環境—

村上公哉 (芝浦工業大学)

・巨大津波による人命被害を低減するための減災まちづくりの推進

有賀 隆 (早稲田大学)

次の震災に備える (14:55~15:25)

・大都市大災害 (首都直下地震)：積み残された課題

村上正浩 (工学院大学)

・南海トラフ巨大地震：津波防災地域づくりの実際と今後の課題

牧 紀男 (前掲)

パネルディスカッション (15:30~16:45)

・論点提示：被災地での経験から将来につなげるべきものは何か/将来対応における建築学会の役割

コーディネーター：加藤孝明 (前掲)、パネリスト：各発表者、小野田泰明 (前掲)、古谷誠章 (前掲)

まとめ

加藤孝明 (前掲)

閉会の辞

古谷誠章 (前掲)